

市原市^{ちぐさやま}千草山遺跡第3地点

2017

東京電力パワーグリッド株式会社
市原市教育委員会

例 言

- 1 本書は、千葉県市原市能満字東千草山 1472-3、同 1473-2 に所在する千草山遺跡第 3 地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、鉄塔建設に伴い、東京電力パワーグリッド株式会社の委託を受け、千葉県教育委員会の指導の下、市原市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査は、67.1 m²を対象として実施した本調査である。
調査期間：平成 28 年 11 月 7 日～11 月 25 日 担当 近藤 敏
整理期間：平成 28 年 12 月 1 日～12 月 28 日 担当 近藤 敏
- 4 本文執筆、編集は近藤 敏が行った。
- 5 図中に示した座標値及び北方位、水準は、東京電力パワーグリッド株式会社提供の近隣既知点と、地形図の値から求めて使用している。
- 6 本遺跡の市原市埋蔵文化財調査センターの調査コードはセ 551、遺物の注記番号も同様である。
- 7 本書に収録した出土遺物及び記録類は、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

本文目次

第 1 章 はじめに……………1	第 3 章 まとめ…………… 3
第 2 章 検出された遺構と遺物……………3	

挿図目次

第 1 図 千草山遺跡第 3 地点 位置図……………1	第 5 図 第 1 号遺構貼床除去後 平面図…………… 6
第 2 図 千草山遺跡第 3 地点 周辺地形図……………2	第 6 図 千草山遺跡第 3 地点 調査位置図…………… 6
第 3 図 調査区第 1・2 号遺構 平面・断面図……………4	第 7 図 出土遺物実測図…………… 7
第 4 図 第 1 号遺構 平面・断面図……………5	

表目次

第 1 表 出土遺物観察表……………8

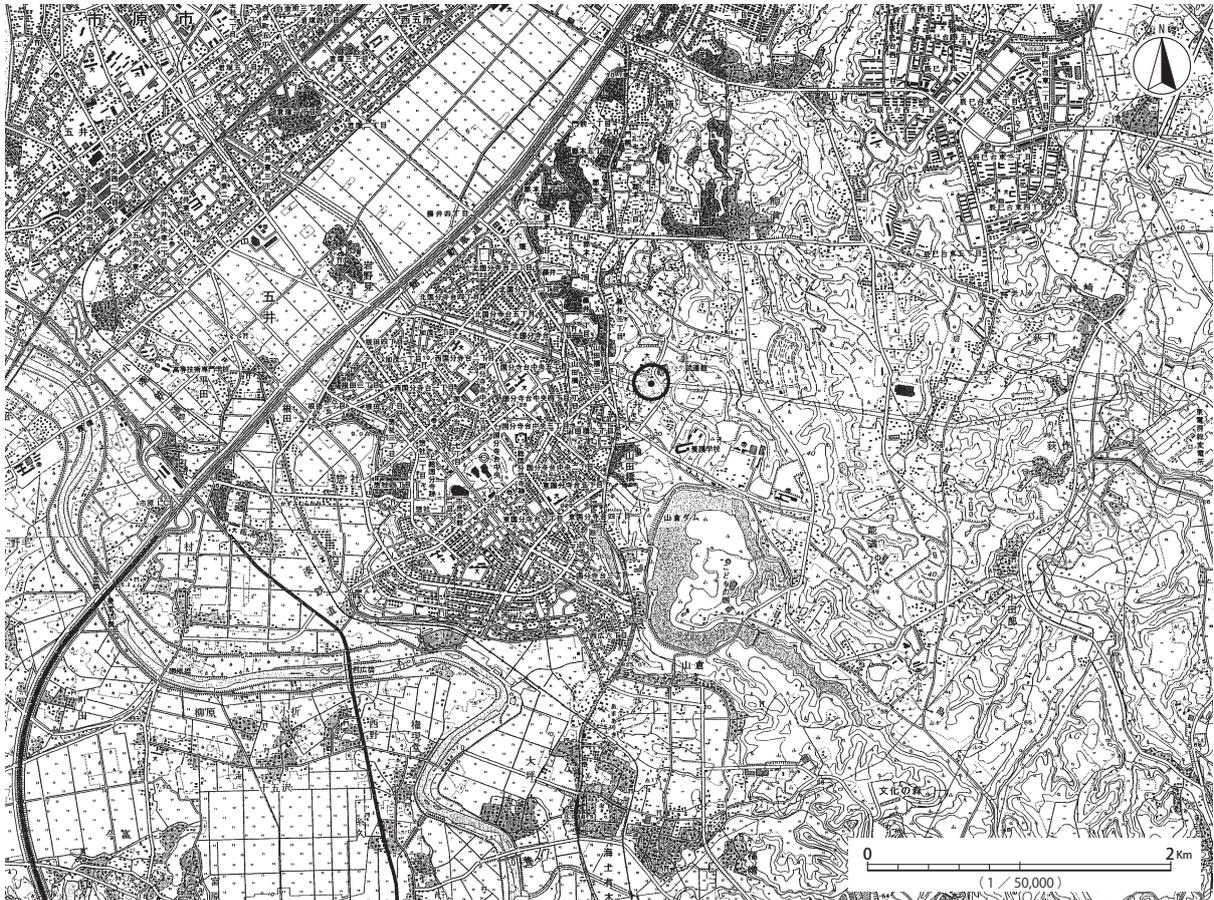
写真図版目次

PL.1 遺構写真	PL.2 出土遺物写真
-----------	-------------

第1章 はじめに

調査の経緯 千草山遺跡については、文化財保護法第93条第1項規定に基づき、東京電力パワーグリッド株式会社(以下東電PG)から、平成28年7月14日付け埋蔵文化財発掘の届出が、千葉県教育委員会教育長(以下千葉県教委)宛てに提出された。平成28年8月10日付け市教文第577号により、市原市教育委員会教育長(以下市原市教委)から千葉県教委宛進達された。平成28年8月31日付け教文第16号の856で、千葉県教委から東電PG宛に「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について」の通知があり協議の結果、発掘調査の取り扱いとなった。その後東電PGから、平成28年9月16日付け「埋蔵文化財発掘調査の実施について」の依頼が、市原市教委宛てに提出され、平成28年10月12日付けで両者による埋蔵文化財調査委託契約が締結された。

調査遺跡の位置と概要 遺跡は養老川右岸市原台地中央、新田川上流の水源域、支谷に挟まれた標高31mの台地上に位置する(第1図○内・第2図①)。遺跡の西側は上総国分寺台遺跡群として昭和63年度まで広域の発掘調査が実施され、近隣の遺跡では西方向400mに位置する稲荷台遺跡(浅利2003)が著名である(第2図④)。千草山遺跡は過去2度の調査が実施され、当遺跡が占める台地北半分西側の千草山第1地点②(安藤他1979)、東側が第2地点③(田中他1989)となっており、その南側隣接地に第3地点は位置している。今回の調査の第3地点の住居跡は、第1、第2地点調査の古墳時代6世紀後半時期の集落の一部と推測され、標高31m等高線上にあり、地形から当該期集落の南東端に位置する(第2図・第6図)。第3地点西方向100mには、千草山廃寺⑩(田中2003)が存在している。



第1図 千草山遺跡第3地点 位置図



第2図 千草山遺跡第3地点 周辺地形図

第2章 検出された遺構と遺物

遺構 調査は、基礎施工範囲と調査範囲の連続性確保のため、変則ながらH字形となった(第3図)。表土除去は試掘成果から遺構確認面までは、重機により行った。表土は比較的安定しており、耕作による攪乱は観察されず、黒褐色土を除去すると褐色または暗褐色土の遺構覆土が観察された(第3図)。2条の溝状遺構が検出され遺構に伴う遺物は検出されなかったが、層序から中世以降と推測される。その第2号遺構は、第3図断面図E-E'にもローム上面に達しない断面が観察されており、東西方向の浅い掘削の、溝状遺構と推定される。調査区の約10m四方には、第1号遺構の約一辺7mの竪穴住居跡が検出された(第4図)。住居跡棟方向はほぼ南北方向であり、北側のカマドの一部(網点トーン粘土)、南側に出入り口(中央の柱間ピット)位置が推定されるが、その部分は調査範囲外として保存された。支柱穴は4本あり、南東隅に間仕切り溝が1条、柱抜き痕跡はなく、貼床が柱穴周囲を覆っており、柱はそのまま引き抜かれたか、立腐れたと推測される。貼床を剥ぐと、東側に2条の仕切り溝状の凹地を検出しているが、建て替えの痕跡は検出されなかった(第5図)。

遺物 出土遺物のほとんどが第1号住居跡の覆土から出土している(第1表)。第7図の1～5は縄文土器であり、4、5は千草山第2地点において同時期の住居跡が調査されている。第7図6～9は弥生時代後期の土器片であり、千草山第2地点でも住居跡が検出されている。出土した縄文土器、弥生土器共に小片であり、調査区内での関連遺構の検出はなかった。

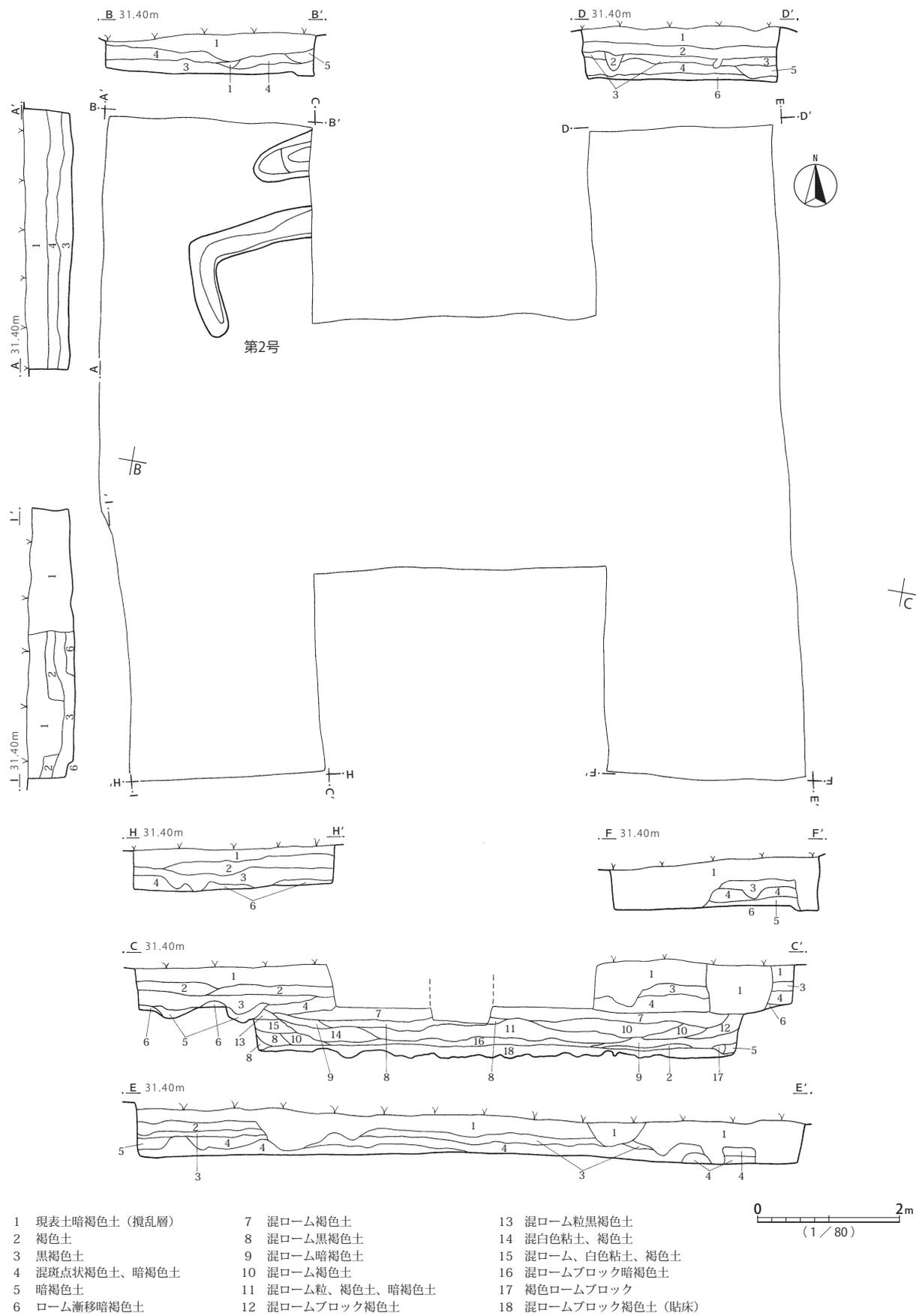
第7図10～21は古墳時代の土師器で、13、17、20は覆土上部から出土し、10、11、14、16は床からやや浮いて出土している。特徴的鉢の10は口縁部下に浅い沈線が一周しており、底部がやや丸底になっており、16も同様な形態であるが内面が黒色処理している。15は口縁部を人為的に打ち欠いており、11、12の坏は小片である。出土遺物から第1号住居跡の時期は6世紀末期と推定される。

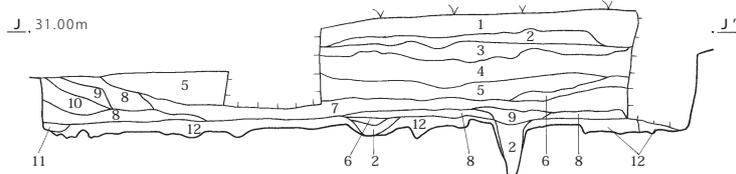
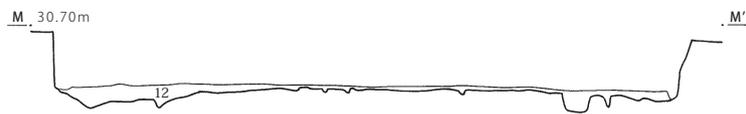
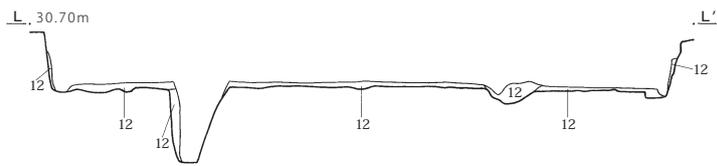
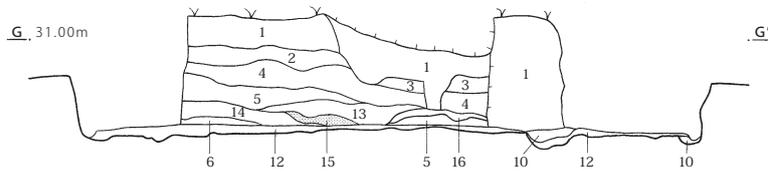
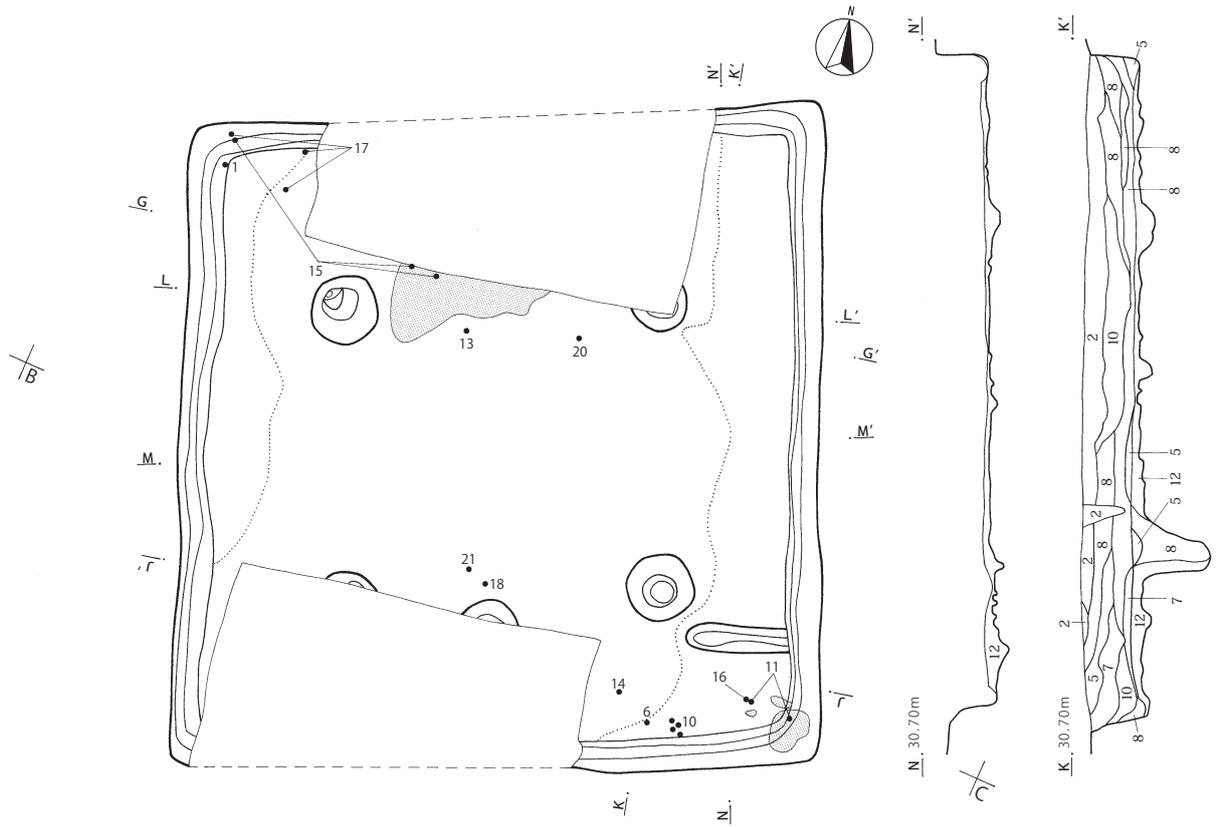
第3章 まとめ

調査面積が67.1㎡と狭小な調査(第6図)であるが、古墳時代住居跡の検出による千草山遺跡の古墳時代集落範囲確認と、縄文時代早期の包含層及び弥生時代後期の遺物を検出した。

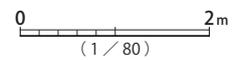
引用参考文献(第2図遺跡番号と対応)

- ⑤ 平野考古学研究所編 1977年『宮前遺跡第1次・第2次調査報告書』千葉県市原市教育委員会
- ② 安藤鴻基他 1979年『千葉県市原市千草山遺跡発掘調査報告書』市原市
- ③ 田中清美他 1989年『千葉県市原市千草山遺跡・東千草山遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告第29集
- ⑥ 浅利幸一 1991年『市原市郡本大宮遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告第41集
- ⑦ 忍澤成視 1992年『市原市山田橋亥の海道貝塚』(財)市原市文化財センター調査報告第48集
- ⑧ 蜂屋孝之・小橋健司 1999年『山田橋表通遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告第28集
- ⑨ 田所 真 2000年「市原市山田橋亥の海道遺跡」『市原市文化財センター年報』平成8年度
- ④ 浅利幸一ほか 2003年『市原市稻荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告書IX 市原市教育委員会
- ⑩ 大村 直 2004年『市原市山田橋大山台遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告第88集
- ⑪ 田中清美 2003年「謎の千草山廃寺II」『市原市文化財センター研究紀要』IV(財)市原市文化財センター

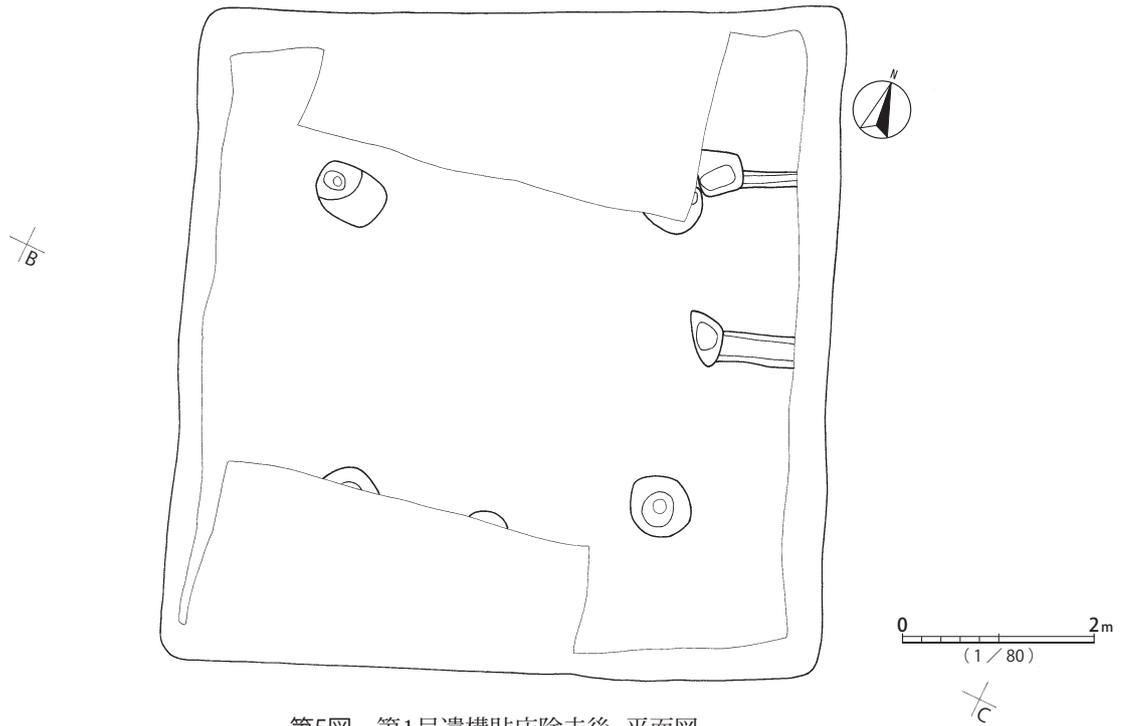




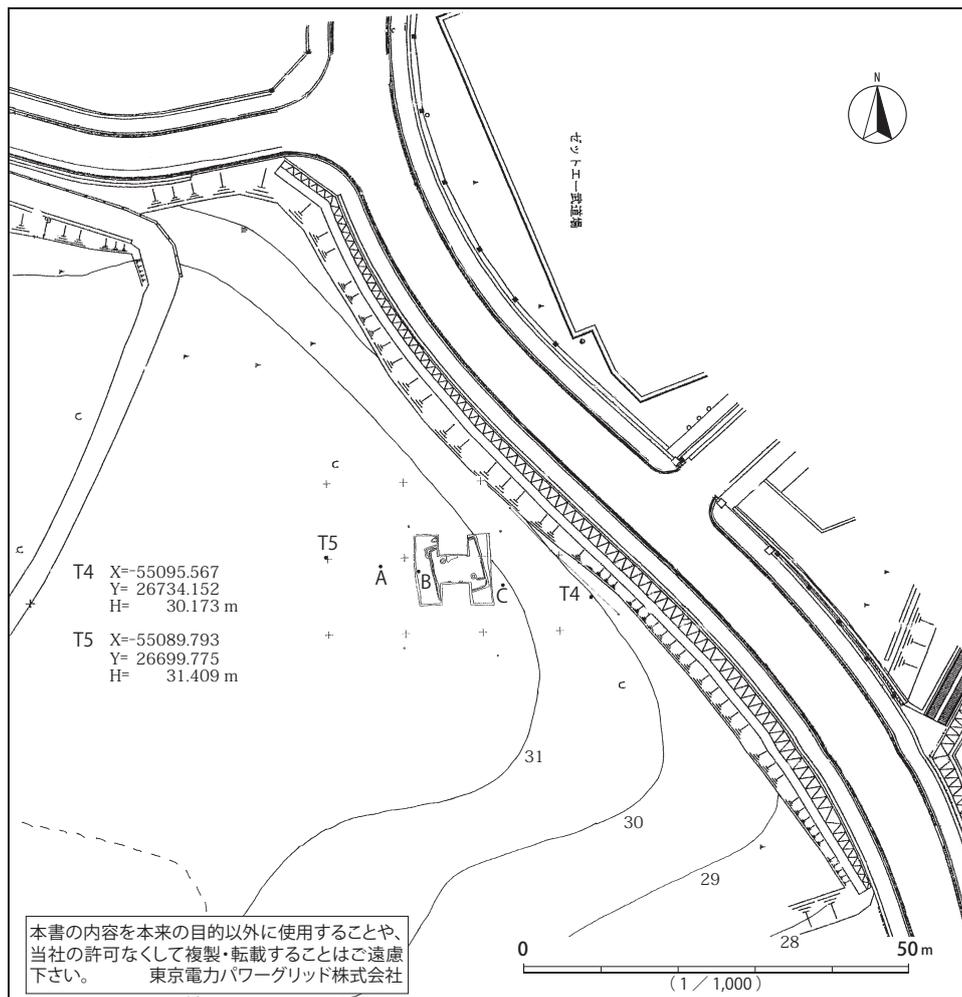
- 1 現表土暗褐色土（攪乱層）
- 2 黒褐色土
- 3 黒色土
- 4 混ローム粒、ローム、橙色焼土粒、灰白色粘土、黒褐色土
- 5 混ローム粒暗褐色土
- 6 混ローム粒黒褐色土
- 7 混ローム暗褐色土
- 8 混ロームブロック暗褐色土
- 9 暗褐色土
- 10 混ローム褐色土
- 11 褐色土
- 12 混ローム褐色土（貼床）
- 13 混白色粘土、橙色焼土粒暗褐色土
- 14 混白色粘土粒、橙色粒褐色土
- 15 白色粘土
- 16 混褐色土白色粘土



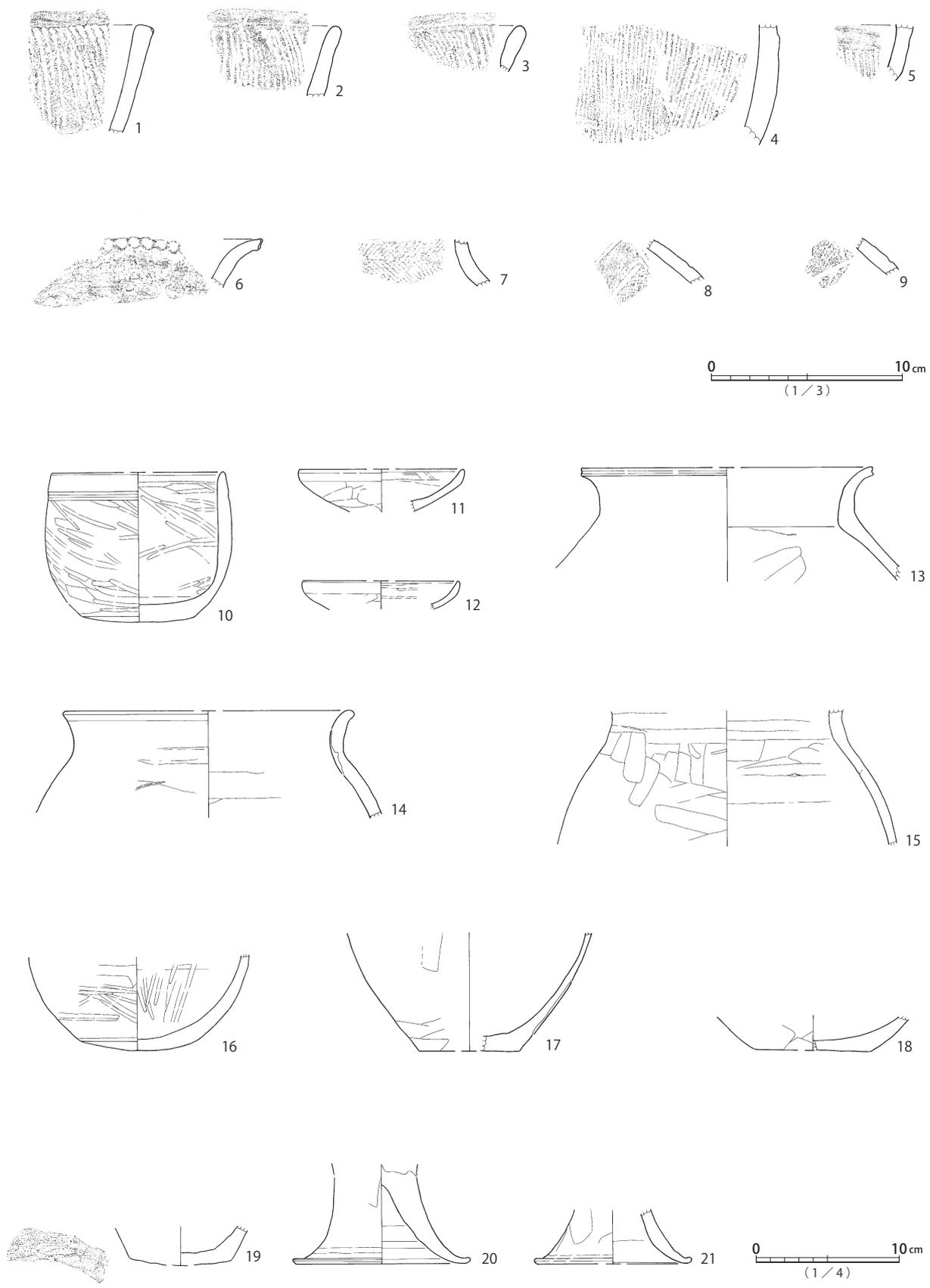
第4図 第1号遺構 平面・断面図



第5図 第1号遺構貼床除去後 平面図



第6図 千草山遺跡第3地点 調査位置図



第7图 出土遺物実測図

第1表 出土遺物観察表

法量の() 値は推定値を示す。

図版 No.	遺物 No.	実測 No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調(外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	
7	2	1	17	1号	縄文	鉢	口唇直下縦位擦糸文	口唇部横ナデ、胴部縦ナデ調整	口縁部片	明赤褐色 / 褐色	細砂礫含有密	稲荷台式				
7	2	2	18	1号	縄文	鉢	口唇直下縦位擦糸文	口唇部横ナデ調整	口縁部片	明褐色 / 褐色	細砂礫含有密	稲荷台式				
7	2	3	19	1号	縄文	鉢	口唇直下縦位擦糸文	口唇部横ナデ調整	口縁部片	褐色 / 褐色	細砂礫含有密	稲荷台式				
7	2	4	20	1号	縄文	鉢	胴部縦位沈線充填	横位ナデ調整	胴部片	褐色 / 明赤褐色	密	中期加曾利E式				
7	2	5	21	1号	縄文	鉢	隆部下胴部縦位沈線充填	横位ナデ調整	胴部片	赤褐色 / 赤褐色	密	中期加曾利E式				
7	2	6	13	1号	弥生	甕	口唇部連続原体圧痕、ハラミガキ	ハラミガキ	口縁部片	暗褐色 / 褐色		表面面黒煤付着、弥生後期				
7	2	7	14	1号	弥生	壺	頸部文様羽状細文	赤彩	頸部片	明赤褐色 / 褐色		弥生後期				
7	2	8	15	1号	弥生	壺	胴部上半部歯状沈線区画内網目状擦糸文外赤彩	横ナデ	胴部片	赤褐色 / 赤褐色		弥生後期				
7	2	9	16	1号	弥生	壺	胴部上半部歯状沈線区画内網目状擦糸文	横ナデ	胴部片	褐色 / 赤褐色		弥生後期				
7	2	10	1	1号	土師器	鉢	口縁部平行沈線、ハラナデ、丸底底部、黒斑	ハラ横ナデ	口縁部-胴部 1/2 底部完存	にぶい黄褐色 / 明黄褐色	密	鬼高式6世紀末期	7.8	10.5		
7	2	11	3	1号	土師器	環	口縁部横ナデ、以下ハラケズリ成形	ハラミガキ	口縁部 1/4	にぶい褐色 / にぶい褐色	赤色粒含む		鬼高式6世紀末期			
7	2	12	6	1号	土師器	環	口縁部横ナデ、以下ハラケズリ成形	ハラミガキ	口縁部片	褐色 / 褐色	赤色粒含む		鬼高式6世紀末期			
7	2	13	2	1号	土師器	甕	口唇部沈線、口縁部横ナデ、以下横ナデ調整	ハラ横ナデ	口頸部 1/4 弱	明黄褐色 / にぶい黄褐色	密	鬼高式6世紀末期	(20.3)			
7	2	14	5	1号	土師器	甕	口縁部横ナデ、以下横ナデ調整	ハラ横ナデ	口頸部片	にぶい黄褐色 / 褐色	白色粒含む		鬼高式6世紀末期	(20.0)		
7	2	15	11	1号	土師器	甕	口唇部打ち欠き、頸部横ナデ以下ハラケズリ	横ハラケズリ、輪積み痕あり	頸部 1/2 - 胴部上位 1/5	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	密	黒斑、鬼高式6世紀末期				
7	2	16	7	1号	土師器	鉢	横ハラミガキ、丸底底部	ハラミガキ、黒色処理	胴部下位 1/6 - 底部完存	にぶい黄褐色 / 黒色	密	鬼高式6世紀末期	7.9			
7	2	17	8	1号	土師器	甕	ハラケズリ、底部微熱器面剥落、底面ハラケズリ	横ナデ	底部 1/4 弱	明赤褐色～褐色 / にぶい赤褐色	砂粒・白色粒含む		鬼高式6世紀末期	(7.0)		
7	2	18	9	1号	土師器	甕	ハラケズリ、底面ハラケズリ	ナデ	底部 1/4	にぶい黄褐色～灰黄褐色 / にぶい黄褐色	赤色粒含む		鬼高式6世紀末期	(8.0)		
7	2	19	12	1号	土師器	甕	底部ハラケズリ、裾熱	ハラ調整	底部 1/4 弱	にぶい褐色 / 明赤褐色			鬼高式6世紀末期	(7.2)		
7	2	20	10	1号	土師器	高坏	ハラケズリ後、ハラナデ	ハラナデ	脚柱部 3/4 - 脚幅部 1/3	にぶい褐色 / 明黄褐色			鬼高式6世紀末期	(12.3)		
7	2	21	4	1号	土師器	高坏	ハラケズリ後、ハラナデ	ハラナデ	脚幅部 1/8	褐色 / 褐色	少量赤色粒含む		鬼高式6世紀末期	(11.0)		



調査区 全景



調査風景



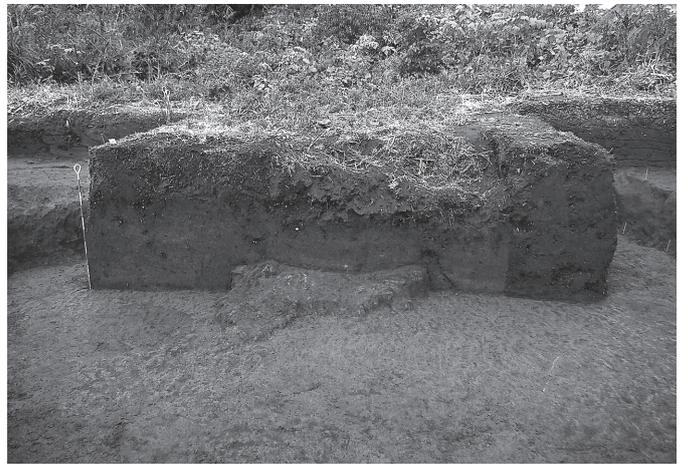
第1号住居跡 全景



第1号住居跡 全景



第1号住居跡 出土遺物



第1号住居跡 カマド



第1号住居跡 掘り方



第2号溝状遺構 全景



10



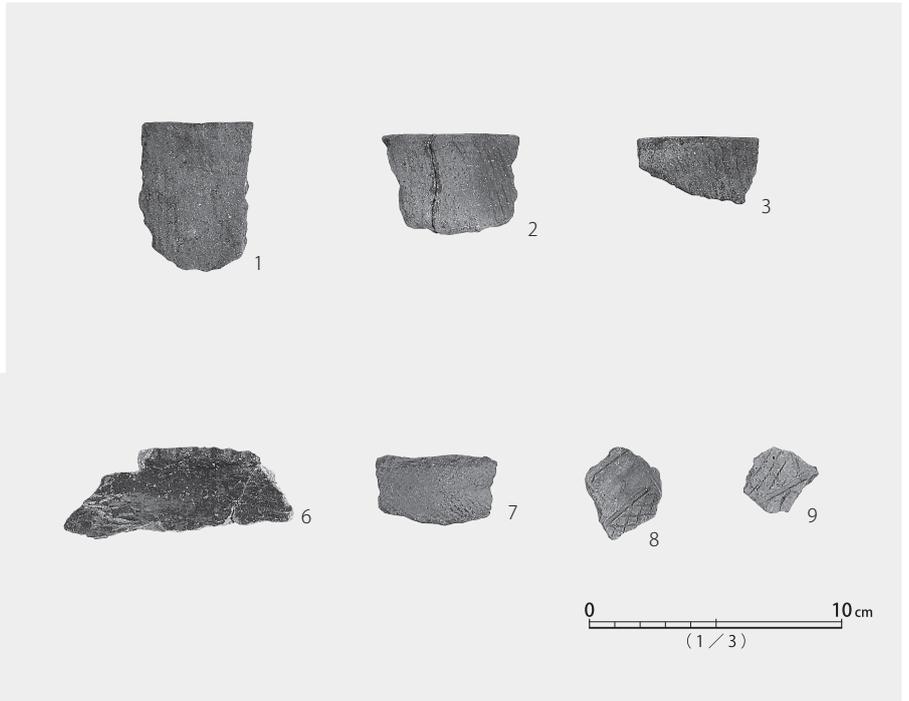
16



20



21



4



5



6



7

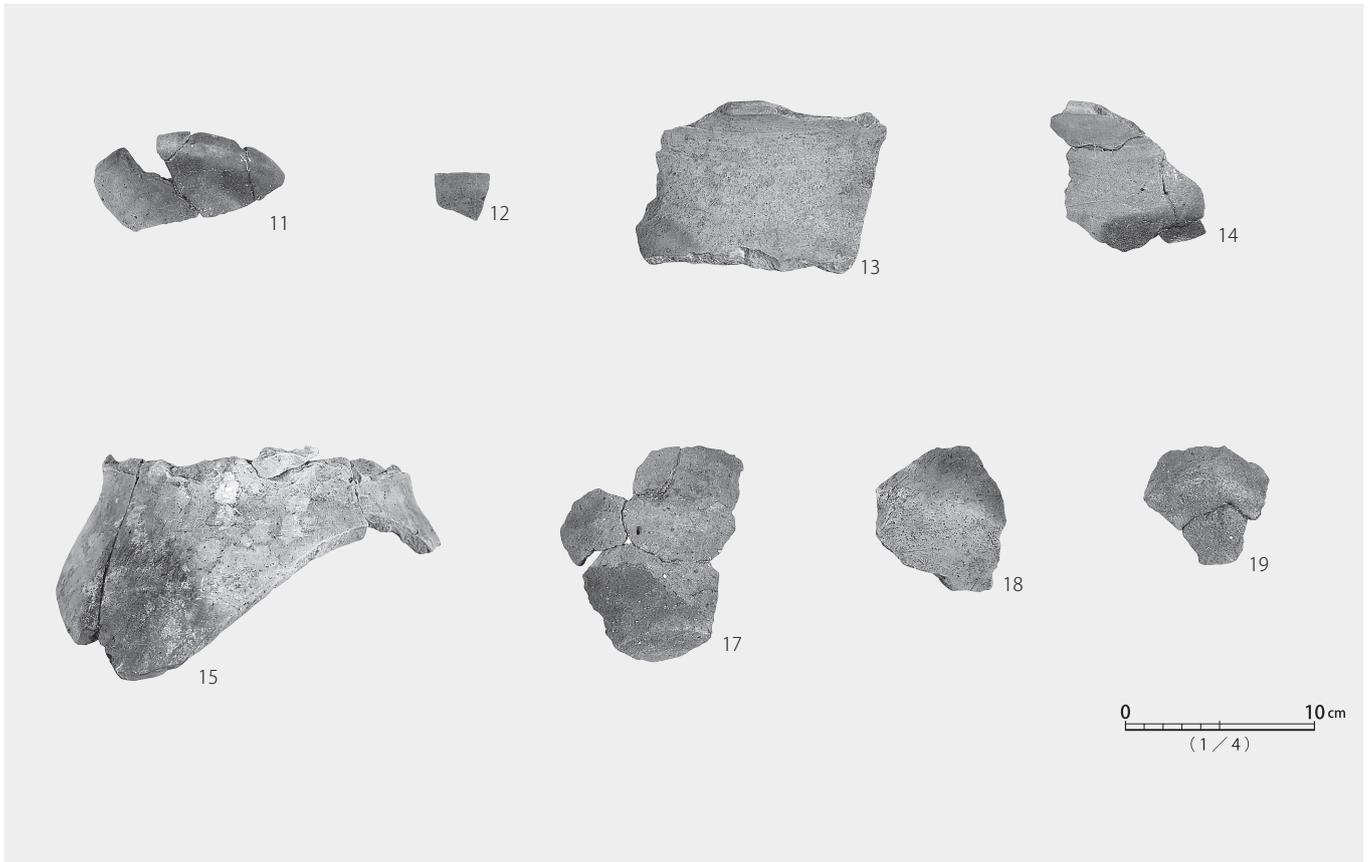


8



9

0 10 cm
(1/3)



11

12

13

14

15

17

18

19

0 10 cm
(1/4)

報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらしちぐさやまいせきだい3ちてん							
書名	市原市千草山遺跡第3地点							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	近藤 敏							
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2017年（平成29年）3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ちぐさやまいせき 千草山遺跡 だい3ちてん 第3地点	ちばけんいちはらしのうまん 千葉県市原市能満 あざひがしちぐさやま 字東千草山1472-3、1473-2	12219	775	35° 50′ 30″	140° 12′ 78″	20161107 ～ 20161125	67.1㎡ (本調査)	鉄塔建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
千草山遺跡第3地点	集落跡	古墳時代後期		古墳時代後期竪穴住居跡1軒、中世溝状遺構2条		縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器		千草山遺跡北部分は2回の大規模調査で報告されており、今回は遺跡の南東端に当たる。
要約	千草山遺跡は、市原台地新田川上流の支谷に挟まれた、南北に長い標高31m前後の舌状台地上に位置している。古墳時代後期の竪穴住居跡部分の本調査を実施した。遺物から6世紀末期の住居跡と推定される。調査区北西側にL字形の溝状遺構が検出され、覆土や掘り込み面の位置から中世時期と考えられる。遺構に伴わない遺物は、縄文時代早期の撚糸文系の稲荷台式と、縄文時代中期の加曽利E式が小片ながら出土している。弥生時代後期の壺、甕類の破片も散見されるが、いずれも小片であり、千草山第2地点の調査で縄文時代中期の住居跡、弥生時代後期の住居跡も検出されているので、包含層が広がっていると考えられる。近隣の千草山廃寺関連の遺構、遺物は検出されなかった。							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第40集

市原市千草山遺跡第3地点

平成29年3月17日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

発 行 東京電力パワーグリッド株式会社
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436(22)1111

印 刷 三陽メディア株式会社
千葉県市原市五井東3-47-10
TEL 0436(22)4348

